



新着図書紹介

国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産（GIAHS）は変わりゆく進化する持続可能な農業を体現した遺産である。『世界農業遺産 ―注目される日本の里地里山―（武内和彦著、祥伝社）では、「古くから、人々は生きるために里山と里地を守り続けてきた。生活の中で農文化が育まれ、景観が形成されてきた。その事例を紹介しながら、持続可能な環境に向けて我が国が先頭に立つことができる」と説く。「里山を維持するには地域の人の関与が不可欠である。都会に住む人々が里山の魅力にひかれて来訪し、農水産物の流通も活発になる。自然共生社会づくり、日本発の『SATOYAMAアイニシアティブ』のもつ広い領域での実践が期待される」と筆者は言う。



新書判 224ページ  
定価 780円  
祥伝社

世界遺産の単なる紹介ではない。生糸にまつわる歴史や、設定された視点から整理しながら読み進むと、なぜ世界遺産として登録されたのかが見えてきて、興味深い。『世界遺産 富岡製糸場』（遊子谷玲著、勁草書房）では、登録の概要、製糸場の起り、経済界、軍事、皇室から見た製糸場についてひもとくとき、製糸場を成立させてきた絹産業遺産群や海外との関係性などの視点から、周辺が担った役割を浮き彫りにする。筆者は、「日本と外国の要素との絡まり合い」「生糸と軍事」「群馬×横濱（群馬埼玉×横浜横須賀）」という二重螺旋構造の中にこの遺産のあり方や特徴が位置づけられ、その構造を折に触れて確認しながら語っていくことが実態に迫ることになるのではないかと感じ、「絹をめぐる物語は、まだまだ国境を越えて、綾なす彩りに包まれていくに違いない」と、熱い思いで結んでいる。



四六判 216ページ  
定価 1,800円  
勁草書房

「観る観光から体験する観光」「観光から関係へ」などと言われる中で、FAOとUNESCOという、国連の二つの組織に認定された「遺産」の、観光における意味や位置づけを考えてみてはどうか。

（片桐）

利用状況

ベストリーダー（2014年8月～10月）

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

【旅行ガイドブック部門】

海外旅行では、

- ・『地球の歩き方ペルー ボリビア エクアドル コロンビア2014-15』（ダイヤモンド・ビッグ社）
- ・『るるぶ台北2015』（JTBパブリッシング）
- ・『地球の歩き方ベトナム2014-15』（ダイヤモンド・ビッグ社）

国内旅行では、

- ・『るるぶ佐賀 呼子 唐津 有田 嬉野』（JTBパブリッシング）

【その他一般部門】

- ・『外国人だけが知っている美しい日本 スイス人の私が愛する人と街と自然』（ステファン・シャウエッカー）
- ・『観光白書 平成26年版』（国土交通省観光庁）

副館長のつぶやき

毎年、この時期になると、卒業論文のテーマ探しや資料収集のために当館を訪れる学生が目立つ。何となくテーマは決めたいけれど、どう研究にアプローチしたらいいのか、皆さん苦労しているようだ。本音を言えば、「手っ取り早く手頃な資料を見つけて論文を書き上げたい」、というのが多くの学生の気持ちかもしれない。

せっかく図書館を利用するのなら、論文に取りかかる前に、まずは館内の書籍を眺めながら、自分が探究したいテーマや研究方法のヒントを見つけることから始めてみてはいかがだろうか。さまざまな先人の知（書物）に触れていくうちに、観光への興味が深まり、研究する眼も養われていくに違いない。（大隅）

特別展示のご案内

日本を旅した外国人

2015年1月5日（月）～2月27日（金）

日本を訪れる外国人旅行者は2013年に年間1,000万人を突破しました。これほど数多くの外国人が日本を訪れるのは日本の歴史上初めてのことであり、我が国への注目がますます高まりつつありますが、一方で私たち日本人は、外国人が日本のどこに、何に魅力を感じ、どのように見ているのかということあまり理解していないのではないのでしょうか。

過去にも多くの外国人が我が国を訪れ、各地を旅する中で、日本の文化、日本の技術、日本人の暮らしぶりや振る舞いなど、さまざまな魅力を発見してきました。このような外国人が残した旅の記録、外国で発行された日本の旅行ガイドブック、国際線機内誌で紹介されている日本の記事などは、外国人の目を通して見た日本を知る貴重な資料と言えるでしょう。

そこで本展では「日本を旅した外国人」をキーワードに、参考になる図書、専門書、古書・稀覯書（抜粋コピー）などを集め、展示いたします。

ぜひ多くの方に当館を訪れていただき、日本を再発見する機会にさせていただければと思います。

\*詳細は、ホームページ <http://www.jtb.or.jp/>

旅の図書館特別展示で検索